

学校関係者評価（第1回 令和2年7月28日、第2回 令和3年2月1日）

意見・要望・評価等

第1回学校評議委員会

① 感染症対策について

意見1： 新型コロナウイルス感染症対応として、各教室では戸を開けたり、扇風機やサーキュレーターを使用したりするなどの対策が講じられていた。しかし、設置されている換気扇が古く、作動音が大きいため使用されていない教室があった。教室の換気については、今後も引き続き対応が必要である。新しい換気扇は作動音も小さいため、教室の環境整備として更新を行なっていけるとよい。

衛生管理及び感染症対策について、布ブランコ等、布製教材の管理はどうなっているか。

回答1： 布製教材については、これまで天気の良い日に干して日光に当てるようにしているが、改めて徹底したい。

意見2： 各部の様々な学習グループの授業を見学することができ、児童生徒の実態に合わせて一人一人の力を最大限に伸ばすための学習が行われていることを実感した。

障がいや重度の児童生徒は、床で寝転がることもあり、衛生面や感染症予防の点から心配である。対策していることが分かる案内があると保護者は安心できる。

回答2： 衛生面や感染症予防については、長良医療センターからアドバイスをいただいたり、校医や指導医と相談をしたりしながら対策を講じている。しかし、対策の内容を外部に対して知らせてはいなかった。今後は積極的に情報発信をしていきたい。

② コロナ禍における学習保障について

意見1： 新型コロナウイルス感染症の影響で、学校再開が6月となったことで、学習計画が変更となり、先生たちは大変だったと思う。また、学校行事が縮小され、子供同士がかかわり合って学習する機会が減ってしまうことが心配である。見学時には、集団の場にやっと参加できるようになった生徒もあると聞いた。児童生徒が前向きな気持ちで学習に取り組めるような機会を重点的に増やしてほしい。

回答1： 集団への参加が難しかった生徒が、オンライン授業に参加する中で心理的なハードルが下がり、学校再開後にはスムーズに友達や教員とコミュニケーションを取って集団に参加することができた。また、訪問教育では、通常は教員と児童生徒一対一の個別で授業を行っている。しかし、オンライン授業によって訪問教育を受けている他の友達と一緒に授業を行うことができ、保護者からも高い評価をいただいている。

第2回評議委員会

① 教育活動について

意見1： てんかんをもつ生徒が座って授業をしているとき、保護帽を着けたまま授業をしていたが、身体拘束につながる恐れがあるので注意するとよい。

意見2： 教員が授業の説明をするときに、自己肯定感と話したり、自己有用感と話したりすることがあったので、言葉の整理をするとよい。

意見3： 今後もICT機器の活用が重要となってくると思う。映像や音に加え、AR（拡張現実）やVR（仮想現実）等も活用していくとよい。

意見4： 児童生徒一人一人に合った教材・教具の工夫は大変だと思うが、できる限り児童生徒の可能性を引き出せるような工夫をお願いしたい。

② 保護者との連携・教員の資質について

意見5：児童生徒の実態によっては、学校のことが家庭にうまく伝わらないこともあるので、保護者と教員の連絡が大切である。万が一、体罰やいじめ等が発生した場合についても、児童生徒が保護者に伝えられないこともあるので、教員がしっかりと見守り、小さなことでも発見できるようにしてほしい。